

ガラパゴス諸島—進化と生態の実験室

長崎大学名誉教授 伊藤秀三

ガラパゴス諸島は太平洋のかなたにある。1835年チャールズ・ダーウィンのビーグル号探検以来、人はこの群島にニックネームを与えた。「世界の果て」、「太平洋のノアの箱船」、「生きものたちの王国」、「進化論のふるさと」など。いずれも的を得ている。群島は1959にエクアドル国の国立公園となった。世界注視のうちに、1964年には自然保護を目指してNGOダーウィン研究所が世界からの寄金によって設立され、エクアドル政府は1968年に国立公園管理事務所を開設した。両機関による自然保護の実行は、世界自然遺産(1978)、生物圏保護区(1984)、海洋保護区(1986,1998)の指定という実を結んだ。

なぜガラパゴスは世界の注目を浴びるのか。それは、1000キロの海を越えて群島にたどり着き、ここで進化を遂げた特異な固有生物が多くいるからである。いまでも、19世紀にダーウィンが見たであろう自然と生物を、そのままの姿で見ることが出来る。

| 固有種率要約表 | | | | | 陸産の主な固有動植物 | | |
|---------|--------|------|------|---------|------------|-------------------|--------------|
| | | 種数 | 固有種数 | 固有種率(%) | | | |
| 陸産生物 | 種子植物 | 436 | 223 | 51 | 哺乳類 | コメネズミ 7種 | オットセイ |
| | 隠花植物 | 583 | 41 | 7 | 鳥類(海鳥) | アホウドリ | ペンギン |
| | 陸産脊椎動物 | 97 | 58 | 60 | (陸鳥) | ダーウィンフィンチ 13種 | コバネウ |
| | 陸産貝類 | 83 | 80 | 96 | | マネシツグミ 4種 | ハト |
| | 陸産節足動物 | 2059 | 1071 | 52 | 爬虫類 | ゾウガメ 12亜種 | ヘビ 4種 |
| 海産生物 | 海藻類 | 333 | 116 | 35 | | 溶岩トカゲ 7種 | ヤモリ 6種 |
| | 海産脊椎動物 | 472 | 43 | 9 | | 陸イグアナ 2種 | 海イグアナ |
| | 海産甲殻類 | 377 | 137 | 36 | 種子植物(固有属) | スカレシア 15種 | マクラエア |
| | 海産軟体動物 | 652 | 148 | 23 | | レコカルプス 3種 | |
| | 棘皮動物 | 126 | 16 | 13 | | ダーウィニオタムヌス 3種 2変種 | |
| | | | | | | 溶岩サボテン | 柱サボテン 1種 2変種 |

目前に繰り広げられる動植物の生態は、人間の影響を受けない自然のままの生態を見せてくれる。スカレシア15種は固有の植物で、乾燥地に生える低木12種と、高所の湿潤地に生える高木3種がある。最大の高木種は幹直径25センチ樹高12メートルに達し、純林を形作る。それはある条件のもと、一斉に芽生え、揃って成長し、一斉に枯れ果てるといった特異な世代交代を行う。それは樹木のない孤島の上で草本植物が遂げた進化の結末である。動物界で特異なのはコバネウである。強力な肉食動物がない生態系の中で、羽を退化させ飛ぶことをやめたばかりか、「多夫一妻制」によって種族維持に成功した鳥である。ほかにも特異な生態と進化を見せる動植物は数多い。だからこそ、ガラパゴスは「進化と生態の実験室」として世界の注目を集めているのである。

大型中型の哺乳類のうち、ヒトだけは筏を作り船を作って海を渡る手段を手に入れた。ガラパゴスにヒトが入り込み、かつては意図的にヤギやブタ、グアバやシンチョナを持ち込み、それらを放置して山野に帰化させた。いっぽう最近のガラパゴスは、目前に野生生物が見られる地としても注目を集めている。探訪者は世界中からやってくる。人や貨物の移動にまぎれて、最近ではヤモリやハチ、キイチゴやカエルまで帰化してしまった。それらは自然生態系のなかに侵入し、生態系を変容させ始めている。もはやガラパゴスは「世界の果て」ではない。「世界の注視」の「生態と進化の実験室」であり、「エコツアーリズム先進地」である。しかも「人と帰化生物も乗せた箱船」となってしまった。

ダーウィン研究所と国立公園事務所は、連携し協力して自然保護を進めてきた。しかしその努力を上回る勢いで帰化動植物は広まるかも知れない。この趨勢を変えるべく、1998年には、陸と海の生物多様性保全と自然保護をかかげた「ガラパゴス特別法」が制定された。固有動植物の保護と同時に、帰化動植物を早くコントロールし駆除しなければ、また海の自然の実態を解明して資源の保護管理を徹底しなければ、ガラパゴスは「生態系崩壊の実験室」となるかも知れない。